

「水中世界を散策してみませんか？」

武田 雅志

北海道は寒い。しかし、国内でもスクーバダイビングに適した有数の地域であることをご存知ですか？ 例えば、積丹・支笏湖・知床などのダイバー憧れのダイビングスポットが数多く存在します。また、札幌は人口当たりのダイビングショップの店舗数が、大都市圏より多いというデータもあります。

スクーバ(SCUBA)とは、自(Self)・給気式(Contained)・水中(Underwater)・呼吸(Breathing)・装置(Apparatus)の頭文字をとったものです。つまり、スクーバダイビングとは、圧縮した空気(窒素78%、酸素21%、その他の気体1%)を詰めたタンクを背負い、水中呼吸装置を使い水中で通常呼吸を行うことです。これに対し、単純に息をこらえて水面下にもぐることをスキングダイビングと言います。

スクーバダイビングを規制する国際的な法律はありません。したがって、健康状態に問題がなく、適切な器材を持ち、適切なトレーニングを受けていれば、誰でも楽しむことができるスポーツです。反面、このスポーツの潜在的な危険性を認識した上で、自己責任を伴うスポーツであることも事実です。TVや映画で話題となった“海猿”の中にもでてきた、潜水中の「バディ・システム」などは、スクーバダイビングにおける独特な安全システム(フォールトトレランスもしくはフェールソフト?)の一つといえます。

「スクーバダイバー認定」とは、ダイビングサービスを受けるために必要となる認定証(通称：Cカード)を取得することを意味します。そのためには、



認定証(Cカード)



潜水記録(ログブック)

各ダイビング認定団体のインストラクターから、所定の基準にそった講習を受けなければなりません。通常、初心者を対象とした認定講習は、学科・プール実習・海洋実習などを4～5日程度かけて実施します。その講習目的は、スクーバダイビングの初歩的な知識・技術を習得することです。

ちなみに、認定講習を主催するダイビング団体としては、PADI(パディ)・NAUI(ナウイ)などがメジャーな認定団体です。(私はNAUIの認定ダイバーであり、ダイビング本数は120本です。)

興味のある方は、お近くのダイビングショップを気軽に覗いてみては如何ですか？

ここ数年、私も技術士試験などのため水中世界とはご無沙汰でしたが、今年からスクーバダイビングを再開する予定です。沖縄・石垣島などの国内をはじめ、GBR(オーストラリア)、紅海(エジプト)、インド洋(モルディブ)等等…、すばらしい水中世界がみなさんを待っているはずですよ。

武田 雅志 (たけだ まさし)

技術士(建設/総合技術監理部門)

株式会社プラテック札幌支店

